

第5次えびの市総合計画 振り返り検証シート①

1.基本施策の情報			
基本目標	3. 誰もが元気“健康のまちづくり”		
節	1. 健康の保持・増進		
基本施策	1. 健康づくりの推進		
主担当課	健康保険課	関連課	こども課

2.主要施策の評価等

主要施策	1. 健康づくり支援体制の充実
評価の理由	<p>出前講座、健康教育、広報紙等での健康づくりに関する情報の提供、文化祭で健康づくり展を開催するなど、市民の健康づくりに係る活動を支援することで、市民が積極的に心と体の健康づくりに取り組めた。</p> <p>自殺対策については、自殺対策協議会や自殺対策協議会部会を構成する団体等と連携し事業の推進をしており、自殺者数は減少傾向にある。</p> <p>H27→10名 H28→8名 H29→4名 H30→9名 R1→8名</p>
今後の課題	<p>新型コロナウイルス感染症の出現による外出自粛や人と人との接触の機会が制限される中ではあるが、コロナ禍における事業の周知方法を工夫し、より多くの市民が健康づくりや自殺対策について情報を得られるよう努める必要がある。</p>
解決の方策等	SNSを利用した事業の周知及び啓発の場、機会の確保を行っていく。
主要施策の進捗評価	A(順調)

主要施策	3. 感染症予防対策の推進
評価の理由	<p>各種予防接種を実施することにより、感染症の発生または重症化の予防・まん延防止を図ることができた。</p> <p>高齢者の予防接種については、接種費用の助成を行い経済的負担を軽減した。結核検診については、広報紙や個別通知による受診勧奨を行うなど受診促進を行った。</p>
今後の課題	<p>新型コロナウイルス感染症の出現により、外出自粛や人と人との接触の機会が制限されるといったことが課題となった。</p>
解決の方策等	SNSによる情報発信等対象者にあつた情報提供を行うことにより、予防接種時期の確認や接種、受診忘れを防止する。
主要施策の進捗評価	A(順調)

主要施策	2. 各種健(検)診等の推進
評価の理由	<p>子育て世代包括支援センターで、母子保健や育児に関する相談支援を行うことができた。また乳幼児に対し各種健診等で発育・発達の状態を確認し、専門機関の紹介やその後の経過観察、育児相談、家庭訪問等により保護者の育児不安の解消を図ることができた。</p> <p>各種検診を実施することで自身の健康状態を知ってもらい、生活習慣病やその他の疾病を早期発見することで早期治療に繋げ、市民の健康保持に努めてもらうことができた。特定健診の受診率は年々向上してきている。</p> <p>各種がん検診については、通常の個別通知のほか、特定の年齢に達した市民へ無料クーポンを配布したり集団検診のWeb予約を開始するなど、受診のきっかけづくりや受診しやすい環境を整えた。</p>
今後の課題	<p>乳幼児健診は乳幼児の発育発達や、疾病の早期発見などにつながることから、未受診者をなくす対策が必要である。</p> <p>特定健診については、受診率を目標値に近づけるために、さらに工夫した受診勧奨を行っていく。</p> <p>各種がん検診については、検診の大切さを市民へ伝えて行くと共に、更なる受診環境整備が課題である。</p>
解決の方策等	SNSを利用した事業の周知及び啓発の場、機会の確保を行っていく。
主要施策の進捗評価	B(概ね順調)

主要施策	
評価の理由	
今後の課題	
解決の方策等	
主要施策の進捗評価	A(順調)

第5次えびの市総合計画 振返り検証シート①

1.基本施策の情報			
基本目標	3. 誰もが元気“健康のまちづくり”		
節	1. 健康の保持・増進		
基本施策	2. 地域医療体制の整備		
担当課	市立病院	関連課	健康保険課

2.主要施策の評価等

主要施策	1. 地域医療体制の充実
評価の理由	<p>地域医療を支える各種団体への助成を行った。また、市内の医療機関等に就職した看護師及び就職しようとする看護師を支援するため、奨学金の返還に対する助成や就職支度金を支給し、看護師等を確保できた。</p> <p>市立病院においては、地域医療の中で公立病院の役割を果たすために最重要な医師確保について、関連大学等への継続的な医師派遣要請等を行うとともに、宮崎県医師確保対策協議会や民間紹介事業を活用してきたが、当院の目標とする内科医師1名を採用することはできなかった。</p> <p>また、えびの市の地域包括ケアシステムに対応するため、回復期病床を導入した。また、市内外の医療機関、福祉施設等との細かな連絡調整を行い患者の在宅復帰を支援することができた。</p> <p>基幹病院としての機能維持の面においては、建設改良に関する計画に基づき、医療機器更新等を行い医療環境が整備された一方で、えびの市出身医師に定期的な手紙・メール等で市勢や市立病院の情報提供を行い当該医師らの現状把握を行うとともに、知り合い医師の紹介を求めるとともに、人脈は少しずつ広がっているものの確保はできていない。</p> <p>このため、宮崎大学医学部や宮崎県医師確保協議会主催の研修プログラムに積極的に参加した。プログラムの内容は、医学生が市内の農家や市立病院内で体験学習や交流を行うことで、将来、地域医療を担う医師の育成の一助となり、医師確保に繋がるよう期待するものとなった。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師人材確保のための各種制度は設けているものの、利用は少ない。 ・早期の内科医師の獲得に向け、効果的な手段を講じる必要がある。 ・市内外の医療機関、福祉施設等と積極的に連携し、回復期病床を安定して運用し、切れ目のない医療サービスの提供体制を維持しなければならない。 ・地域における将来の医療従事者確保のため、地域医療に対する市民の関心を高め、また、市内外に市立病院の地域医療に係る取り組み等を情報発信していく必要がある。 ・医療機器等に関して、国保特別調整交付金等を活用しながら更新整備を計画的に実施するとともに、電子カルテやオンライン診療の導入などIT化による医療環境の向上を図り、経営基盤を強化していく必要がある。
解決の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師人材確保のための事業の見直しを行い、市内に不足する看護師人材の確保に努める。 ・積極的に医師の確保活動を継続するとともに、郷土出身医師との接触や宮崎県医師確保対策協議会の紹介事業をはじめ他の紹介業者等の活用により広範囲な求人を実施するとともに、質の高い医師の確保を図る。 ・地域医療連携室を中心として、市内外の医療機関、福祉施設等と相互の診療体制や患者情報の共有化を進め、迅速な連携ができる体制構築を図る。 ・市立病院の地域包括ケアに係る取り組み等の情報を広報や市ホームページにより市内外に発信し、また、医学生等の研修を積極的に受入れ、地域医療におけるえびの市立病院の魅力アピールしていく。 ・国保特別調整交付金を活用し、効果的な医療環境整備に努める。
主要施策の進捗評価	B(概ね順調)

主要施策	
評価の理由	
今後の課題	
解決の方策等	
主要施策の進捗評価	A(順調)

主要施策	2. 救急医療体制の整備
評価の理由	<p>西諸地域の初期救急医療体制の維持・充実のため、休診日となっている日曜日・祝日・年末年始に輪番制で急患に対する診療を行う「日曜・休日在宅当番医」確保及びドクターヘリ運航に係る財政支援を行うことで、市民の救急医療体制を確保した。</p> <p>市立病院においては、週末等の宿日直非常勤医師を例年目標どおり確保し、常勤医師の負担軽減につなげた。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が救急に医療機関等の受診が必要となった場合、確実に必要な医療が得られるよう医療機関や関係機関と連携を図り、初期救急医療体制を維持していく必要がある。 ・安定した医療の提供と救急医療体制維持のため、引き続き常勤医師の負担軽減を図る必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症については、医療体制や検査体制の維持に努める必要があるものの、救急医療の対応に影響がないか懸念されるところである。
解決の方策等	<p>救急医療体制を維持・充実していくため、医療機関に対する財政支援を継続していくとともに、救急時の医療機関受診について、確実に医療機関受診につながるよう、市民への情報発信に努める。</p> <p>地域の救急医療体制を維持しながら、常勤医師負担軽減のため、大学や県等へ働きかけ、週末等における宿日直非常勤医師の確保に努める。</p> <p>現状として常勤医師の平均年齢が50代であるため、今後、高齢化が予想される。非常勤医師の人数を増やすことで、当直等の負担軽減を図っていく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に関する検査及び医療体制の構築や救急の対応については、市立病院単独ではなく二次医療圏及び近隣医療圏と連携し、切れ目のない対応を行っていく。</p>
主要施策の進捗評価	A(順調)

主要施策	
評価の理由	
今後の課題	
解決の方策等	
主要施策の進捗評価	A(順調)